



製版液

せいはんえき



概要

製版液は、金属版を使ったリトグラフを製版する際に使用する、非描画部を不感脂化させる溶液です。アラビアゴム溶液に、リン酸と氷酢酸を加えた混合液で、エッチゴム液とも呼ばれます。

リトグラフは水と油が反発する性質を応用して刷る版面で、製版により親水部分と親油部分を化学的・物理的に作ります。製版液は、非描画部に酸化皮膜を作り、親水性を持たせます。

製版液は、描画後の版面に、刷毛やスポンジを使って均一に塗布します。この時、厚塗りだと、以後の工程で描画部を落とす妨げとなり、薄すぎると版のつぶれや汚れの原因になります。また、解墨を使った版の場合、塗布時に墨が解けてくる場合があるので注意します。製版液は乾く時に最も効果を発揮するので、塗布後は完全に乾燥させ、版に作用させます。

製版液の酸濃度は、描画の状態や気温などによって調節します。一応の目安として、アラビアゴム溶液 100 に対しリン酸 1～2%、氷酢酸 0.1～0.2%を混合します(武蔵野美術大学・清水昭八処方)。この時、リン酸濃度が高いと、描画部分が腐食され、描画が薄くなるので注意が必要です。この処方以外にも、アラビアゴム溶液にエッチ液を加えたものや、すでに酸を調合して市販しているSK液などの不感脂化液で代用ができます。

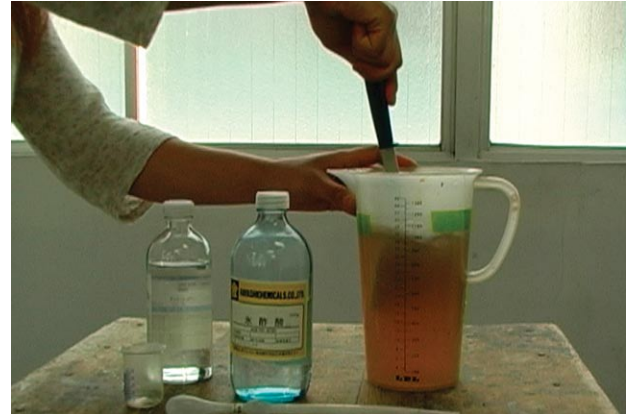
製版液を混合する場合は、換気の良い場所で行います。アラビアゴムは一般的な画材屋で、リン酸、氷酢酸は薬局で購入できます。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字

製版液をつくる



手順1. アラビアゴム溶液 (1 リットル)、氷酢酸、リン酸を用意します。



手順4. ヘラなどでよくかき混ぜます。



手順2. 20 ミリリットルのリン酸を、アラビアゴム溶液に加えます。



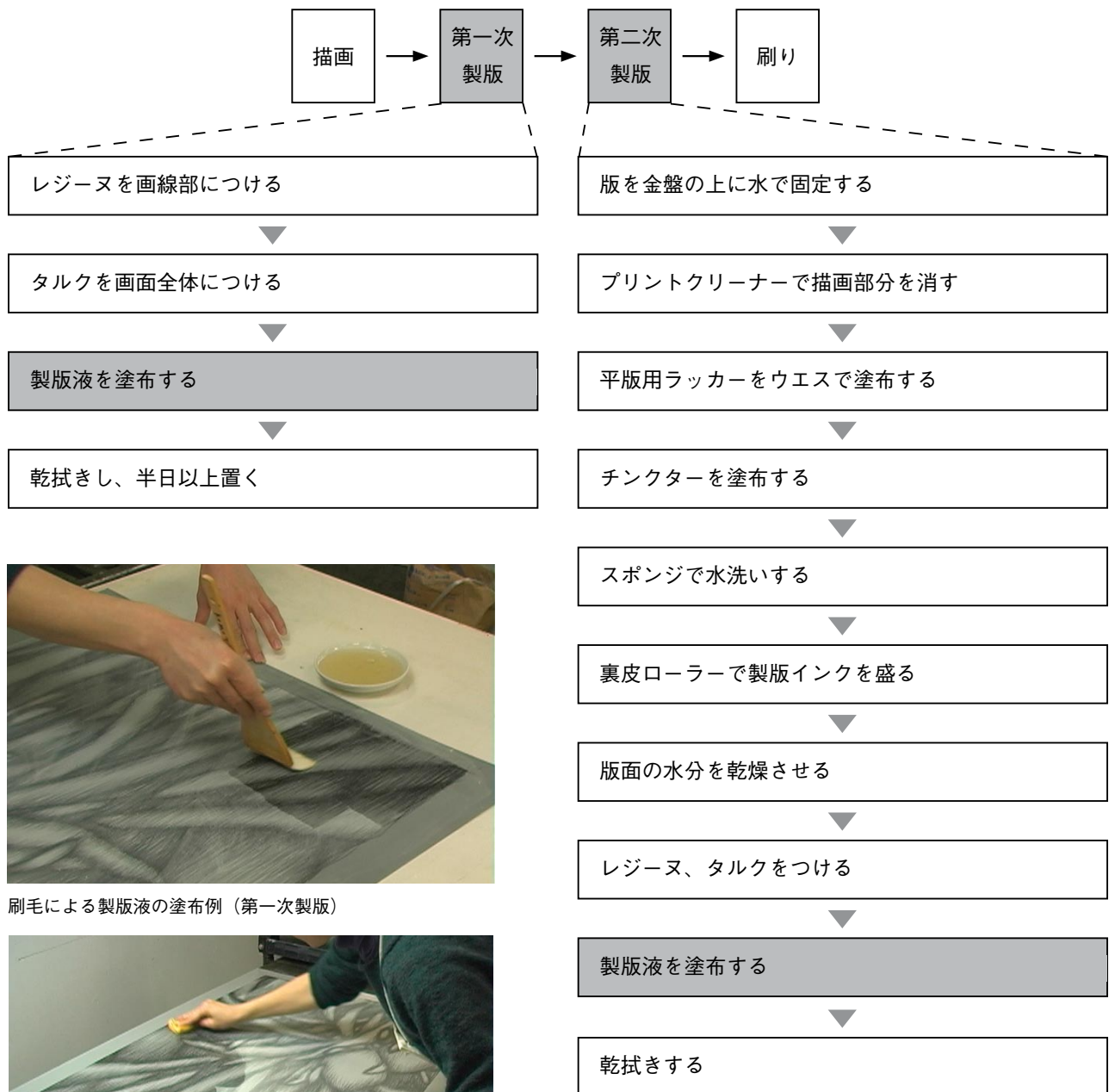
手順5. 出来上がった製版液は保管しやすい容器に移し、冷蔵庫などで保存することで腐りにくくしましょう。



手順3. 続いて、2 ミリリットルの氷酢酸を同様に加えます。

リトグラフ（金属版の場合） 制作工程

※灰色の部分は、「製版液」が使用される工程です



刷毛による製版液の塗布例（第一次製版）



スポンジによる製版液の塗布例（第二次製版）

いずれの方法も、製版液を版の隅々まで素早く均一に塗ります。